

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	兵庫県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	洲本市立洲本第三小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	障害児学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	3	3	21	28
児童数	105	92	102	113	101	92	8	613	

研究の概要

1. 研究主題

<p>一人ひとりを生かした学習指導をめざして 「ハーフサイズの利点を生かした指導の研究」</p>
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>3・4年 算数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習理解の開きが大きくなる中学年の指導の充実を図ることにより高学年時における能力差を少なくするため。</li> <li>基礎的な知識技能が重要視されるため。</li> <li>内容に学年の壁がなく、関連性や系統性が高い。</li> <li>児童個人の持つ力が他の教科にくらべて把握しやすい。</li> <li>教科で培う論理的思考力を他の教科にも発展させられる。</li> </ul>
--

(2) 年次ごとの計画

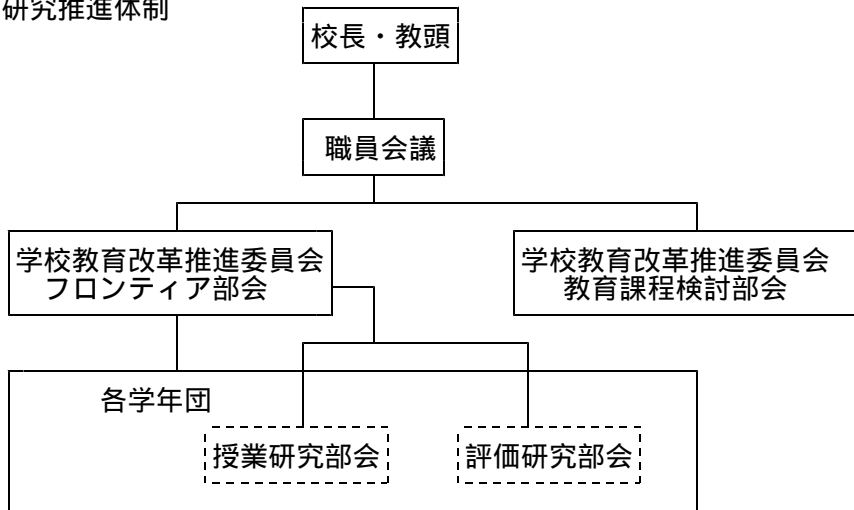
平成14年度	<p><b>テーマ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりに応じた学習指導をめざして ～児童の興味関心を高め、意欲を持続させる算数科授業の研究～</li> </ul> <p><b>研究の見通し</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学力向上の最大の原動力は、児童が学習に対する意欲関心興味を持つこととし、基礎計算力の育成と興味をもつ授業や教材の工夫によって学力を向上させる。</li> </ul> <p><b>研究内容・方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>算数学力の基盤を定着させる方法の研究を行い、成果を検討する。</li> <li>興味・関心を持たせる算数教材・授業の研究を行い、次年度への足がかりとする。</li> </ul>
--------	---

平成15年度	<p><b>テーマ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりを生かした学習指導をめざして ～児童の興味関心を高め、意欲を持続させる算数科授業の研究～</li> </ul> <p><b>研究の見通し</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一斉指導の中で児童一人ひとりに応じた個別指導や評価を行うことにより、児童の学習意欲を持続させ、学力を向上させる。</li> </ul> <p><b>研究内容・方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童一人ひとりに応じた指導の方法を研究する。</li> </ul>
--------	--

平成 16 年度	<p><b>テーマ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりに応じた学習指導をめざして ～児童の興味関心を高め、意欲を持続させる算数科授業の研究～</li> </ul> <p><b>研究の見通し</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実践を重ねて生まれた理論をさらに実践し、検証・改善を繰り返すことによって、効果的な学力向上が図れる。</li> </ul> <p><b>研究内容・方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実践を深め、より具体的な授業システムの提案を行う。</li> <li>本校理論の改善と修正を行い、3年間の研究のまとめとする</li> </ul>
----------------	---

\* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制



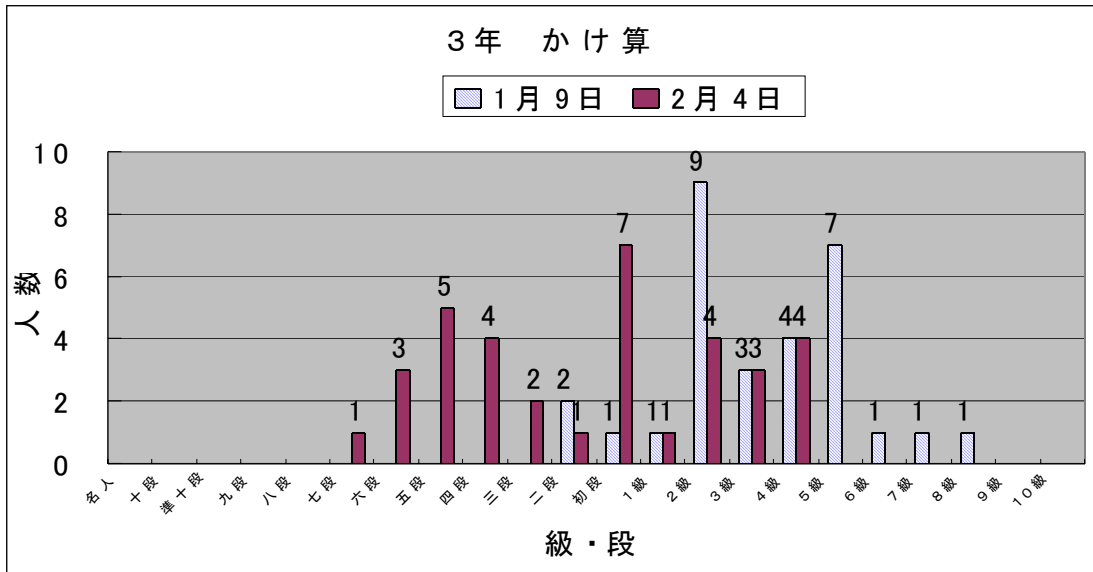
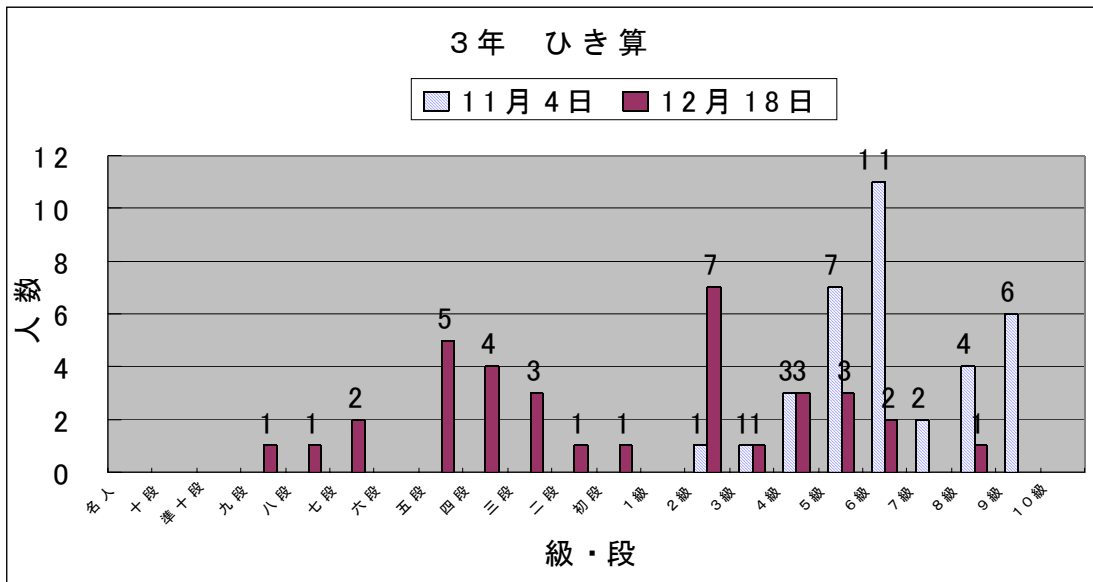
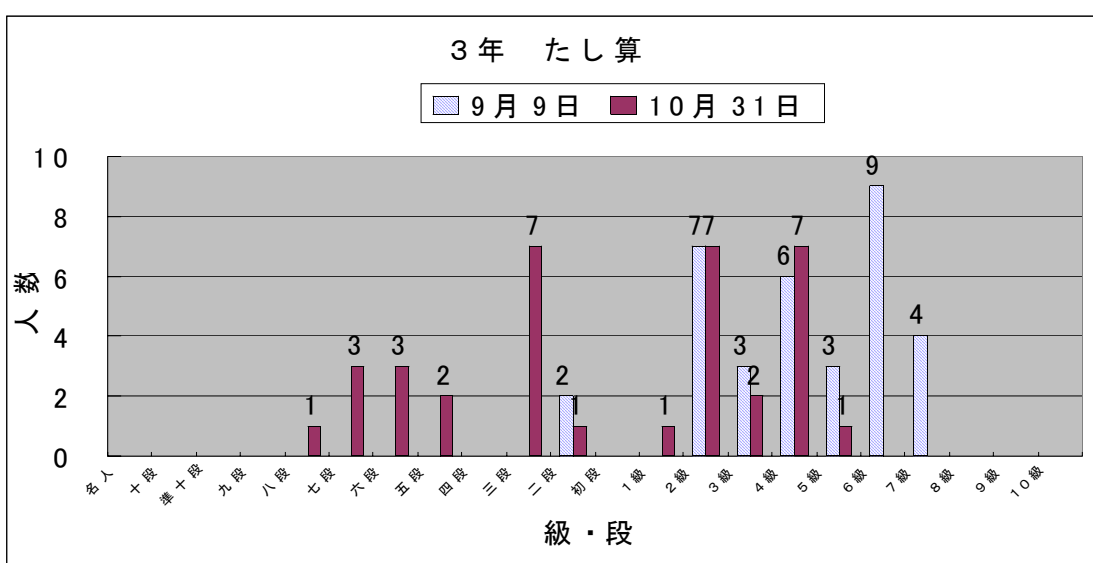
平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

算数教育全体を視野に入れ、効果的な少人数授業の方法探求に取り組んできた。まず、基礎計算力の定着のため、3・4年生の全学級で、毎授業開始時の3分間「加・減・乗法の100マス計算」に取り組んだ。その結果、下の表で見られるように処理数が増え、学習作業の効率向上にも影響している。

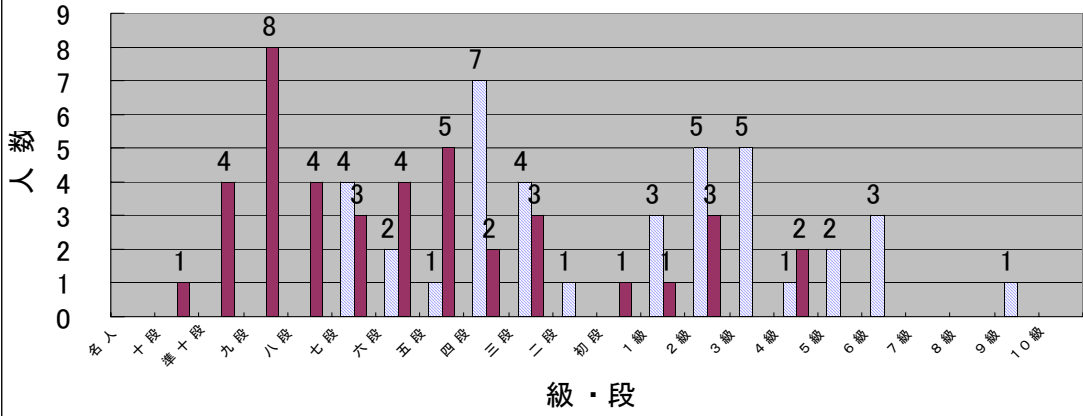
100マス計算 級・段の基準

級	必要得点	段	全問正解で所要時間
10	10点以上	初段	2分50秒以内
9	20点以上	二段	2分40秒以内
8	30点以上	三段	2分30秒以内
7	40点以上	四段	2分20秒以内
6	50点以上	五段	2分10秒以内
5	60点以上	六段	2分00秒以内
4	70点以上	七段	1分50秒以内
3	80点以上	八段	1分40秒以内
2	90点以上	九段	1分30秒以内
1	100点以上	準十段	1分20秒以内
		十段	1分10秒以内
		名人	1分以内



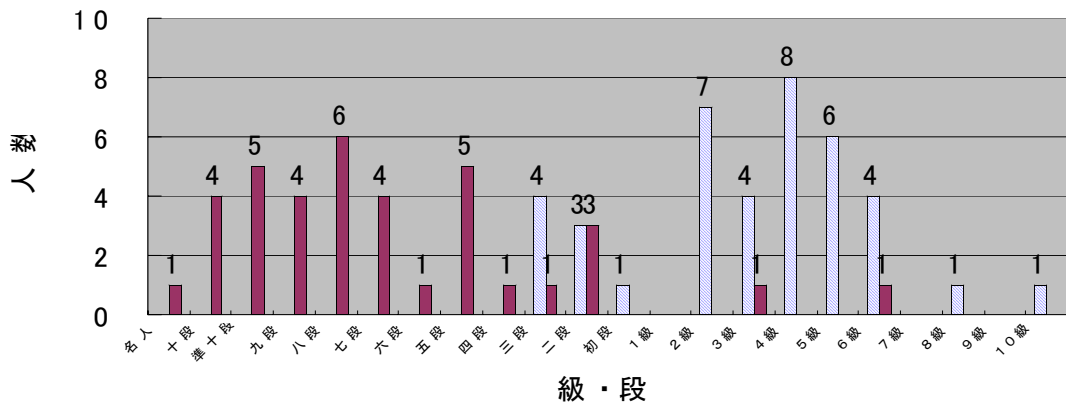
### 4年 たし算

9月9日 10月31日



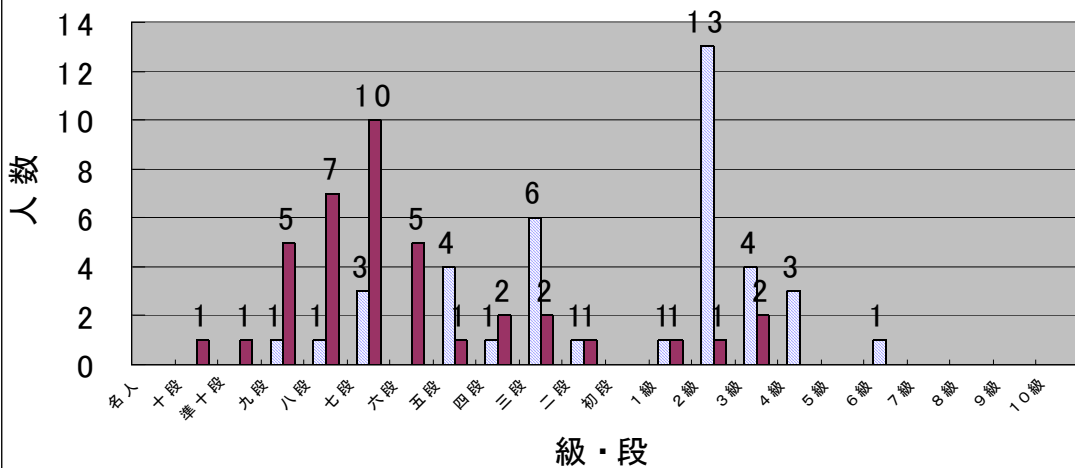
### 4年 ひき算

11月4日 12月18日



### 4年 かけ算

1月9日 2月4日



また、少人数授業での児童一人ひとりに応じた指導方法について試行錯誤を重ねてきた結果、今年度は次に挙げる少人数授業での利点を見出すことができ、それを活用する様々な授業方法を模索することができた。

- ・ 20人以下の静かで落ち着いた雰囲気の中で学習でき教師の話が聞きやすくなった
- ・ 体験や学習の機会が多くなり、学ぼうとする意欲に対してすぐに評価されるため、わかる喜びを感じ、集中して取り組む児童が増えた
- ・ 児童一人ひとりへの細かな指導ができた
- ・ 発言などの頻度が増した
- ・ 児童同士または児童と教員とのコミュニケーションを大切にできた
- ・ 学習の共有化がしやすくなった

## 2. 今後の課題

今後とも、児童一人ひとりに応じた授業方法の研究をより深め、どの児童も興味をもって学習できる授業の開発に努めなければならない。

- ・ 児童が自ら課題に取り組む意欲を育む指導方法の研究
- ・ 家庭学習の定着を図る指導方法の研究
- ・ 学級担任との打ち合わせ時間の確保
- ・ 少人数ならではの授業の工夫  
多様な考えを導き出すための発問の研究  
教材・教具などの開発
- ・ 基礎学力が十分身に付いてない児童に対する個別指導のあり方

### 学力等把握のための学校としての取組

- ・ 市販テストを単元ごとに実施し、本校平均点と作成会社算出点との比較
- ・ 児童への関心・意欲に関するアンケート集計

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 淡路地区学力向上フロンティア事業「新学習システムの推進」研修会  
(平成15年 1月27日(木) 一宮町ふるさとセンター、中間報告、淡路地区小学校対象)
- ・ 少人数授業研修会  
(平成16年 2月20日(金) 本校、少人数授業に関する研修会、市内小中学校対象)
- ・ H P作成等の工夫の実績及び今後の予定  
<http://www1.sumoto.gr.jp/daisan-s>

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
                                  13～18学級                       19～24学級  
                                  25学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  一部教科担任制                       その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       算数                       理科  
                                  生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
                                  体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】      有                      無